



グローバルユース防災サミット2024

開催趣旨 近年、国内外で頻発する大規模災害が激甚化し、世界は「災害多発時代」のフェーズに入ったと考えられます。このような背景の中で未来の社会を守るためには、現役の防災人材に続く「次世代の防災人材」の育成が急務です。彼らが5年後、10年後に社会の中心で活躍し、さらにその次の世代へ防災の知識と経験を継承していくことが、未来の社会を守るための重要なセーフティネットとなると考えています。そのためには若い世代が確かな防災知識と経験を培うだけでなく、多様な文化や背景を持つ人々と相互に理解し、尊重し合う共助の関係構築が欠かせません。

世界有数の災害大国として蓄積された知識と経験を力に、世界のユースと共に「防災/BOSAI」を旗印に社会に貢献する活動を広く発信します。

目的

- ・地球規模の重要課題である「防災/BOSAI」を、次世代の担い手であるユースがローカルとグローバルの視点から学び、考え、具体的なアクションに導きます。
- ・大阪を拠点に活動するユースが、この夏、様々な国・地域で展開した「防災/BOSAI 活動」を一挙に公開し、同年代のユースたちとの新たな協働の場とします。
- ・大阪市市民活動推進助成事業及び公益財団法人三菱UFJ国際財団などの支援を受け、ユースが主体的かつ継続発展的に「防災/BOSAI」の重要性を学び、探究を深める機会を重ねることにより、地域防災の担い手としての自覚を持つ国際感覚豊かな防災人材を育成します。

日時 2024年10月26日(土) 14時30分～16時30分

会場 西尾レントオールR&D国際交流センター（大阪市住之江区南港北 1-12-75）、Zoom参加可。

内容 **14:30 主催者・来賓挨拶**

開催趣旨説明 大阪公立大学都市科学・防災研究センター 教授 生田英輔先生

14:40 プログラム#1 「防災/BOSAI活動のショーケース」(先進的、独創的な防災活動の発信)

- ・防災/BOSAI活動：大阪府立水都国際中学校・高等学校 防災部 & SA
- ・オーストラリアの女子消防団の活動：Girls On Fire (Ms. Bronnie Mackintosh)
- ・マウイ島山火事から学ぶ災害復興：藤田翔乃、出水真輝
(公益財団法人三菱UFJ国際財団国際交流事業公募助成対象事業)
- ・トルコ大地震と災害対応：TOBB Science High School
- ・聞こえない、聞こえにくい子たちの東北スタディツアー：デフノバ
- ・能登半島地震災害ボランティア活動：OSAKANOTOMODACHI

16:00 プログラム#2 「BOSAIラウンドテーブル」(ユースによる防災BOSAI活動の“価値”とは)

- ・豊中市立第一中学校「地域守り隊」
 - ・私立高槻中学校・高等学校
- + プログラム#1 登壇者、会場参加のユースほか
- グローバルユース防災サミット2024共同宣言**

生田教授による総評

*プログラムは変更になる場合があります。

16:30 閉会

主催 グローバルユース防災サミット実行委員会 team@youthbosai2025.net
後援 大阪市、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、
大阪公立大学都市科学・防災研究センター
協賛 田中手帳株式会社、尾西食品株式会社

特別協賛



■グローバルユース防災サミット実行委員会とは、

大阪・関西万博の開催を機に2021年に設立した10代、20代の「ユース」主体の非営利組織です。小中学生から高校生、大学生、社会人という幅広い年代のユースが共に学び、自分と地域、そして世界との関わりの中で防災リテラシーを培い、実践を重ねるプラットフォームとして機能しています。

地元大阪で開催される2025年万博の機運醸成プロジェクト「TEAM EXPO 2025共創チャレンジ」に登録し、大阪を拠点に防災に取り組むユース約60名と、防災やまちづくり、国際交流・協力、ICTなどの専門家がプロボノとしてユースの活動を支えています。2023年度活動実績：活動者3,451名、参加者8,311名。

■グローバルユース防災サミットとは、

国内外で防災に取り組むユースとの交流を通してグローバルな感性を磨き、新たな協働を生み出す場として2021年以来、毎年大阪で開催、今回が4回目。各国で異なる災害リスクやその対応を「文化」として理解、尊重し、自分たちの学びの深化に変えることに主眼を置いています。

歴史や文化の異なるユースが相互理解を深めることにより、世界の全ての人を災害から守り、支えるためには「世界的共助」が重要であることを学び、社会に発信しています。

活動を通して、「防災」の理念を世界共通語の「防災/BOSAI」として社会に広げ、全ての人々が助け合い、支え合う「次世代型防災/BOSAIネットワーク」の拡大を目指しています。

2021年に大阪市の姉妹都市ドイツ・ハンブルク市青少年消防団との交流を皮切りに、2022年には地震頻発国であるトルコとの交流を開始しました。2023年に大規模な山火事に見舞われたハワイ・マウイ島で災害復興に取り組む人々との交流などを通して、世界を見渡す感覚を養い、災害が様々な社会課題と複雑に関連し合っていること、そしてそれらの課題の解決には、その地の人々が大切に守ってきた歴史や文化の理解が欠かせないことを深く学んでいます。

■グローバルユース防災サミット2024の注目点は、

災害を報道で知るだけでなく、自らがその地に赴き、現実を目の当たりにすることで災害の恐ろしさと共に、被災地が直面する様々な問題、課題を肌で感じてきました。前半の「防災/BOSAI活動のショーケース」では、今年1月の能登半島地震の災害ボランティア活動を行った高校生のほか、ハワイ・マウイ島の山火事から一年を経過した現地を訪れた高校生らが、自らの経験の中で芽生えた防災への思いを語るほか、昨年大地震を経験したトルコの学生が直面する復興の課題など、国内外でユース自らが行った防災探求活動を一堂に集め、発信します。

後半の「BOSAIラウンドテーブル」では、より多くのユースが会場のオーディエンスと共に、課題解決に向けた具体策を探ります。防災/BOSAI活動に注ぎ込むユースの熱意と共に培ってきた知識と経験を結集し、災害多発時代を乗り越える礎となる「世界的共助」の強化を目指します。

今年のサミットは「グローバルユース防災サミット2025 in 大阪・関西万博」の前哨戦であり、万博半年前のイベントとして実施するものです。

■大阪市市民活動推進助成事業とは、

市民活動が活発に展開される環境を目指し、大阪市がボランティア・NPOなどの公益活動（市民活動）を支援する「区政推進基金（市民活動支援型）」を設置し、市民や企業等から基金に積みたてられた寄附金を市民活動団体が行う公益的な事業への助成金として給付し、活動を支援するものです。

■西尾レントオールR&D国際交流センターとは、

2025年開催の大阪・関西万博に向け、同社のシェアリング・ソリューションを進化させる技術開発や実証実験を行う研究開発施設として2023年に完成。特に、産官学民やスタートアップと連携し、オープンイノベーションを促進する拠点として注目を集める施設です。

グローバルユース防災サミット実行委員会

 youthbosai2025.net

 [bosaisummit](#)

 [globalyouthbosaisummit](#)

